

平成25年度 学校研究計画

研究主題

未来を築く「活かす学力」の育成

副題

～「確かな学習」と「豊かな学習」との連動を通して～

研究主題について

本校では、昨年度の研究主題を「確かな学力を身につけた子をめざして」、副題を「考えの根拠を明確にすることを通して」として、基礎基本の力を身につけた上で、自分の考えの根拠を明らかにして理由を伝えられる児童の育成をめざして研究を進めてきた。

昨年度の成果としては、帯タイムや家庭学習の取組により、基礎基本の力を高めることができた。また、考えの根拠となる言葉や図をアイテムボックスとして掲示したり、話型を示したりすることにより、根拠を明らかにして理由を説明しようとする児童が増えた。

しかし、学習の構えの徹底や学習方法の理解が不十分で、基礎基本を確実に身につけさせるまでには至らなかった。また、児童自身に伸びを実感させる場がなかったことや、互いを認め合う環境づくりが十分にできなかったことなど児童の学習意欲につながる面でも課題が残った。

そこで今年度は昨年度に引き続いて、確かな学習の構えのもと基礎基本の力を身につけ、根拠を明らかにして説明できる（「確かな学習」ができる）児童の育成に取り組む。その上で、学習形態や場を工夫したり、多様な考え方ができる課題設定をしたりして（「豊かな学習」）、学んだことを活かして問題を解決できる（「活かす学力」の身についた）児童の育成を目指して、研究主題を「未来を築く『活かす学力』の育成」、副題を「『確かな学習』と『豊かな学習』との連動を通して」とする。

めざす児童像

- ・主体的に学習する子
- ・基礎基本を身につけている子
- ・学んだことを活かして問題を解決する子

児童の実態と研究仮説

実態1

◇自分の考えがもてても、相手に伝わるような書き方や話し方が身につけていない。

仮説1

「書く活動」、「話す・聞く活動」の表現方法を発達段階に応じて学べば、学習の中で自分の考えをわかりやすくまとめ、伝える力が身につくであろう。

実態2

◇課題解決のために学んだことから必要なものを選んだり、関連づけたりする力が弱い。

仮説2

既習の選択や関連づけなど活用の思考モデルを示せば、児童はそれを手がかりにして問題解決に向かうであろう。

実態3

◇相手に伝わるように「話す」、理解しようと「聞く」など学び合いの姿勢ができていない。

仮説3

人間関係づくりに関するスキルタイムや生徒指導の3つの視点を意識したふり返りを行うことで、児童に自己指導力が育ち、学び合う心が育つであろう。

めざす児童に近づくために

研究主題 未来を築く「活かす学力」の育成
～「確かな学習」と「豊かな学習」との連動を通して～

「活かす学力」の育成

学んだことを活かして問題を解決する子

授業改善

- ・活用の場を明らかにした授業づくり
- ・物事を多様な観点から考察する場の設定
- ・学習形態の工夫・学び合い学習の充実
- ・生徒指導の3つの視点を意識した評価の工夫

確かな学習

豊かな学習

基礎基本を身につけている子

主体的に学習する子

学力向上

- ・学力調査の分析と弱点克服
- ・漢字・計算パワーアップテストの実施
- ・山王タイムの計画と実施
- ・相手に伝わる話し方の定着
- ・あしあとファイル

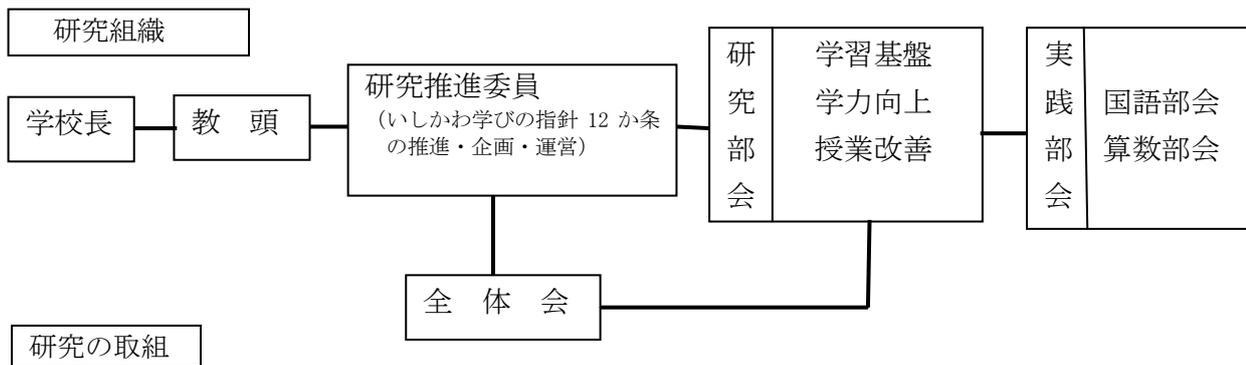
学習基盤

- ・学習規律の確立
- ・ひびきあいタイムの運営
- ・家庭学習の習慣化、内容の充実
- ・生活アンケートの活用
- ・保護者への呼びかけ

学び合える人間関係づくり(ひびきあいタイムの実施)

家庭・地域との連携づくり

よりよい生活習慣・授業につながる家庭学習の仕方を身に付けさせる



・研究・研修計画の作成 ・指導案の形式提案		
・校内および保護者向け広報誌の作成 研究推進委員会		
研究三部会		
学 習 基 盤 部 会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">柱1</div> 主体的に学習する 子をめざす (学指7・12)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立 ・ひびきあいタイムの運営 ・家庭学習の内容の充実 ・家庭学習の習慣づけ ・生活アンケートの活用 ・保護者への呼びかけ
学 力 向 上 部 会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">柱2</div> 基礎基本を身につ けている子をめざ す (学指1・5)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析と弱点克服 ・山王タイムの計画 基礎基本プリント、活用プリントの計画・準備 ふり返りタイムの運営 ・漢字・計算パワーアップテストの実施 ・あしあとファイルの計画と運営 ・相手に伝わる話し方の定着
授 業 改 善 部 会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">柱3</div> 既習を活かして問 題を解決する子を めざす (学指2・3・6)	<ul style="list-style-type: none"> ・活用の場を明らかにした授業づくり ・物事を多様な観点から考察する場の設定 ・学習形態や場の工夫 ・学び合い学習の充実 ・授業研究の方法の改善 <ul style="list-style-type: none"> 授業を見る視点の明確化 成果と課題の可視化 改善策の共有化 ・生徒指導の3つの視点を意識した評価の工夫 ・児童への意識調査

研究計画

月	重点項目 および 取組内容
4	<p>3部会年間計画づくり</p> <p>共通理解 校内研修会（主題，研究内容，研究計画，学習ルール確立，家庭学習の計画，教室掲示の提案）</p> <p>実践 山王タイム（朝，昼1日2回）の取組開始</p> <p>要請訪問 提案授業研究（指導案の形式，事前研，研究授業，授業整理会の在り方）</p> <p>全国・県学力調査</p>
5	<p>授業改善部会 活用を取り入れた学習スタイルづくり 授業研究</p> <p>学習基盤部会 家庭学習内容検討 家庭学習のすすめ配布 家庭学習調査1回目</p> <p>活用力向上部会 基礎・基本を定着させるスキル計画 山王タイムの活用力ドリル計画</p> <p>漢字パワーアップ1回目</p>
6	<p>計画訪問A 授業研究（主題に沿った授業や研究の取組の確認）</p> <p>共通理解（取組の振り返り，修正）</p> <p>公開授業 「活かす学力」につながる習得・活用の場を設けた授業を公開</p> <p>修正 公開授業を受けて，取組の修正</p> <p>漢字パワーアップ2回目 計算パワーアップ1回目</p>
7	<p>校内研修会（活用を取り入れた授業パターンの確認）</p> <p>要請訪問 指導案検討 模擬授業 計算パワーアップ2回目</p>
8	<p>要請訪問 指導案検討 紀要作成</p>
9	<p>共通理解 校内研修会（研究内容，研究計画，学習規律の見直し・改善）</p> <p>実践 要請訪問 授業研究 計算パワーアップ3回</p>
10	<p>公開授業 「活かす学力」につながる習得・活用の場を設けた授業を公開</p> <p>漢字パワーアップ3回目</p>
11	<p>授業研究中間まとめ，家庭学習調査2回目 漢字パワーアップ4回目</p>
12	<p>計画訪問B 修正提案授業研究（指導主事要請訪問，改善策の明確化）</p> <p>計算パワーアップ4回目</p>
1	<p>共通理解 校内研修会（研究内容，研究の成果と課題）</p> <p>実践 計算パワーアップ5回目（学年のまとめ）</p>
2	<p>校内研修会（来年度の研究の方向性）</p> <p>家庭学習調査3回目 漢字パワーアップ5回目（学年のまとめ）</p>
3	<p>共通理解 校内研修会（来年度の研究主題，3部会の来年度の取り組み計画）</p> <p>実践</p>

教育目標 心身ともに健康で、意欲的に学び合う児童の育成

児童の様子

- ・元気で活動的な児童が多い。全校で「あいさつ」と「掃除」の両輪に取り組んでいる。
- ・お互いに認め合い、学びを深めようという意識が弱い。そのため相手意識をもって話をしたり、聴いたりしようとする態度が身につけていない。

めざす子ども

- ①たくましく元気な子
体と心の強さを持ったたくましい子
- ②仲よく心の豊かな子
よさを認め、力を合わせることで
きる子
- ③よく励むかしこい子
自ら考え判断し、それを実践する強
さのある子

地域の様子

- ・デカ山をはじめとして、地域の伝統的な文化のすばらしさにふれることができる。
- ・市の中心部に位置するため、地域に学び働きかける学習に取り組むやすい。また地域の先生に指導を依頼し、学習活動を深めることもできる。

研究主題

未来を築く「活かす学力」の育成

副題

～「確かな学習」と「豊かな学習」との連動を通して～

【研究仮説】

- ・「書く活動」、「話す・聞く活動」の表現方法を発達段階に応じて学べば、学習の中で自分の考えをわかりやすくまとめ、伝える力が身につくであろう。
- ・既習の選択や関連づけなど活用の思考モデルを示せば、児童はそれを手がかりにして問題解決に向かうであろう。
- ・人間関係づくりに関するスキルタイムや生徒指導の3つの視点を意識したふり返りを行うことで、児童に自己指導力が育ち、学び合う心が育つであろう。

手だて

柱 1	柱 2	柱 3	
家庭学習部会	学力向上部会	授業づくり部会	
主体的に学習する子をめざすための取組	基礎基本を身につけている子をめざすための取組	学んだことを活かして問題を解決する子をめざすための取組	
◇ひびきあいタイムの運営 ◇家庭学習の内容の充実 ◇家庭学習の習慣づけ ◇生活アンケートの活用 ◇保護者への呼びかけ	◇学力調査分析と弱点克服 ◇山王タイムの計画と実施 基礎基本プリント 活用プリント ふり返りタイム ◇漢字・計算パワーアップテストの実施 ◇あしあとファイル ◇相手に伝わる話し方の定着	◇国語科を通して ・活用を入れた単元のゴールを示し、児童が見通しを持って学習に取り組む。 ・考えの根拠となる言葉や文を明らかにして、相手に伝わるように自分の考えを表現する。	◇算数科を通して ・既習の選択や関連づけなど活用の思考モデルを手がかりにして、問題を解決する。 ・図や式と言葉をつなげて、相手に伝わるように自分の考えを表現する。